

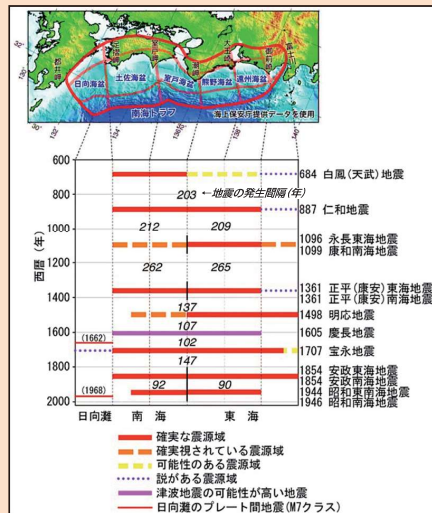
南海トラフ地震の過去事例

南海トラフ地震の過去事例を見てみると、その発生過程に多様性があることがわかります。

具体的には、宝永地震(1707年)のように駿河湾から四国沖の広い領域で同時に地震が発生したり、マグニチュード8クラスの大規模地震が隣接する領域で時間差をおいて発生したりしています。

隣接する領域で地震が続発する場合であっても、安政東海地震(1854年)の際には、その32時間後に安政南海地震(1854年)が発生し、昭和東南海地震の際には、2年後に昭和南海地震が発生するなど、その時間差にはバラツキがあります。

なお、現在の科学的知見によると、次の南海トラフ地震がどのような過程で発生するか、確度高く予測することは困難です。



南海トラフ地震の震源域の時空間分布
 「南海トラフの地震活動の長期評価(第二版)」(地震調査委員会, 2013)

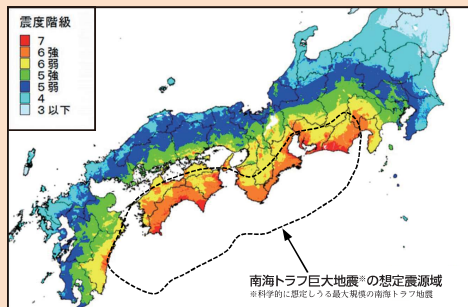
平成29年11月1日から

「南海トラフ地震に 関連する情報」

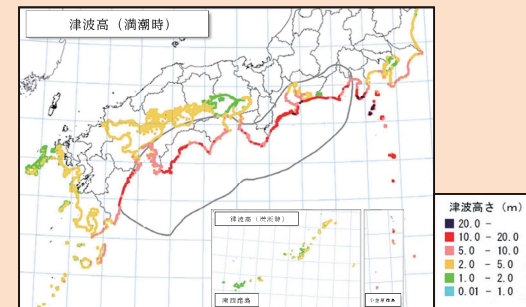
の運用を開始しました

南海トラフ地震は、駿河湾から日向灘沖にかけてのプレート境界を震源域として概ね100~150年間隔で繰り返し発生してきた大規模地震です。前回の地震の発生から70年以上が経過した現在では、次の南海トラフ地震発生の切迫性が高まっています。

南海トラフ地震がひとたび発生すれば、広範囲で強い揺れと高い津波が発生し、甚大な被害が発生することが想定されています。



南海トラフ巨大地震の震度分布
 (複数想定されるケースの最大値の分布)



南海トラフ巨大地震の津波高

(「駿河湾-紀伊半島沖」に「大すべり域+超大すべり域」を設定した場合)

「南海トラフ巨大地震の被害想定(第二次報告)」(中央防災会議, 2013)

情報を見聞きしたら・・・

- ▶ 「南海トラフ地震に関する情報」は、気象庁ホームページからご覧いただけます。また、臨時の情報を発表した際には、テレビ・ラジオ等でも放送されます。

○気象庁ホームページ「南海トラフ地震に関する情報」

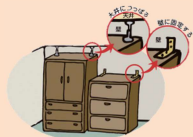
<https://www.data.jma.go.jp/svd/eew/data/nteq/index.html>



- ▶ 南海トラフ地震発生の可能性が相対的に高まった旨の「南海トラフ地震に関する情報(臨時)」を見聞きしたときは、日頃からの地震への備えを再確認して下さい。

<地震への備えの例>

家具の固定、備蓄の確認、避難場所・避難経路の確認、家族の安否確認手段の取り決め



◆本情報の位置づけ◆

「南海トラフ地震に関する情報」は、中央防災会議防災対策実行会議「南海トラフ沿いの地震観測・評価に基づく防災対応検討ワーキンググループ」の報告(平成29年9月26日公表)を踏まえ、当面の対応として発表するものです。現在、地震発生の可能性が相対的に高まっていると評価された際の具体的な防災対応を政府が検討しており、その結果に合わせて、本情報体系を変更する可能性があります。

○お問い合わせ先

気象庁地震火山部地震予知情報課【南海トラフ地震に関する情報、その他全般について】
 〒100-8122 東京都千代田区大手町1-3-4 電話:03-3212-8341(代表)

内閣府(防災担当)調査・企画担当【ワーキンググループ報告書、南海トラフ地震の被害想定について】
 〒100-8914 東京都千代田区永田町1-6-1 電話:03-5253-2111(代表)

情報の種類と発表条件

「南海トラフ地震に関する情報」は、南海トラフ地震発生の可能性の高まりを評価した結果をお知らせするもので、臨時と定例の2種類があります。

情報の種類	発表条件
南海トラフ地震に関する情報(臨時)	<ul style="list-style-type: none"> ○南海トラフ沿いで異常な現象が観測され、その現象が南海トラフ地震と関連するかどうか調査を開始した場合、または調査を継続している場合 ○観測された現象を調査した結果、南海トラフ地震発生の可能性が平常時と比べて相対的に高まったと評価された場合 ○南海トラフ地震発生の可能性が相対的に高まった状態ではなく、なったと評価された場合
南海トラフ地震に関する情報(定例)	「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」の定例会合において調査した結果を発表